かちまいスポーツ
写真がほしい▼0120・25・9410
著作権などにより販売できない写真もあります

鳥栖工連覇 伊藤MVP

帯四中出

学校対抗戦2連覇、最優秀選手賞を獲得した鳥栖工の伊藤海里（3年―帯四中出）

全国高校総体 レスリング

（2日・佐賀県嬉野市中央体育館）

第2日は男子学校対抗戦の決勝までと女子個人戦の準決勝までを行った。男子学校対抗戦は帯四中出の伊藤海里（3年）が出場した鳥栖工（佐賀）が決勝で大阪体育大浪商（大阪）を4―3で破り、地元で2連覇を遂げた。伊藤は出場した全試合でテクニカルスペリオリティー（TS）勝ちと活躍し最優秀選手賞に輝いた。女子の個人戦62キロ級の野口紗英（帯北2年）は2回戦、準々決勝をTS勝ちし、準決勝はポイント勝ちで帯北勢初の決勝進出を決めた。47キロ級では荒川笑舞（えま、同1年）が2回戦をフォール勝ちで勝ち進むも、準々決勝で惜敗し8強。53キロ級の湊莉菜（れな、同3年）は初戦をTS勝ちしたが、2回戦でTS負けした＝記録は10面に掲載。（織戸駿哉）

全試合TS勝ち

やってきたこと信じて

学校対抗戦決勝は、2連覇が懸かる鳥栖工が2―3とリードを許し、後がない場面で6番手の伊藤海里に回ってきた。伊藤は「マットに上がった時はすごく緊張して心臓もバクバクだった」。地元・佐賀開催ということもあり連覇への気持ちはより一層強かった。「やってきたことをやれば勝てると信じて戦った」。伊藤は第1ピリオド（P）52秒のTS勝ちでチームを勢いづけ、続く125キロ級を制して鳥栖工は4―3で逆転勝利した。

伊藤は出場試合全てTS勝ちと大車輪の活躍、最優秀選手賞を受賞した。

兄（翔哉さん）の影響で6歳の時に帯広クラブで競技を始めた。同クラブ代表で帯北の五十嵐真人監督は「3年間努力してくれて素直にうれしい」。伊藤は「帯北にいたら学校対抗戦も帯広の仲間とできたと思うので複雑な気持ちはある。鳥栖に行かせてもらったことは感謝」と同監督に伝えた。親元を離れた伊藤は「レスリングのために佐賀に来させてもらって強くなれた」と家族にも感謝した。

大会第3日からは個人戦が始まる。「厳しい戦いになる」と個人戦の頂もつかみにいく。

【男子学校対抗戦決勝・鳥栖工―大阪体育大浪商】鳥栖工の伊藤海里（3年―帯四中出、赤色シングレット）は得意のローリングでポイントを積み重ね、TS勝ちした

荒川8強

個人47キロ級・帯北

「最後に甘さ出た」

○…1年生・荒川笑舞のインターハイデビューは個人戦47キロ級で8強だった。

2回戦は開始1分2秒でフォール勝ち。準々決勝は3―1とリードしていた第2P終盤に2失点し、同点に追いつかれた。そのまま試合は終わり、ラストポイント（最後に点数を獲得し、同点に追いついた選手が勝者）のルールで準々決勝敗退となった。「悔しい。全体的に見たら組み手は勝っていたが、最後の最後で自分の甘いところが出て負けた」と反省。それでも「差しからの展開などは通用した」。荒川は「来年は一つ階級を上げようと思っている。そこで全員倒せるような力をつけて勝ちたい」とリベンジに燃えていた。

【女子個人戦47キロ級】準決勝まであと一歩だったが、洗練された技術で健闘した帯北の荒川笑舞（1年、青色シングレット）

湊16強「一番悔しく最高」

53キロ級・帯北

○…53キロ級の湊莉菜は2回戦を5分18秒TS負けし16強。「一番悔しくて一番最高の試合だったと思う」とすがすがしい表情で話した。相手に合わせた対策を焦ってできないことが課題だったが、今大会では冷静に戦い「成長したと思う」。

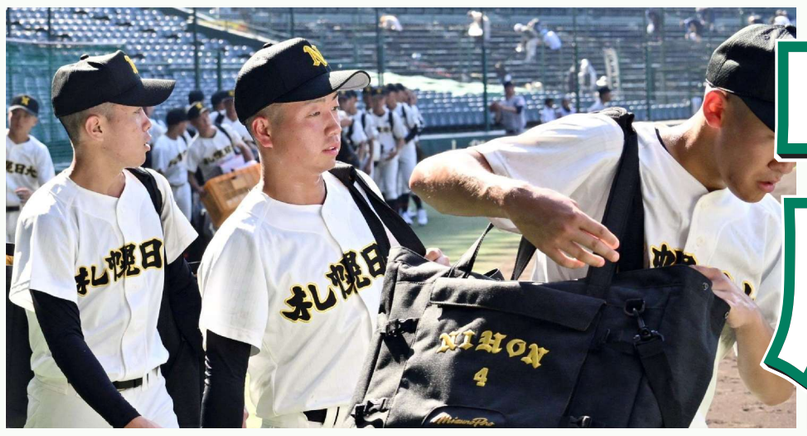
旭川市出身で、レスリングを続けたくて道内強豪の帯北を選んだ。大学でも競技を続ける予定。相手にとって戦いづらいレスリングスタイルを「大学でも続けられるよう頑張りたい」と決意を新たにした。

【女子個人戦53キロ級】相手の動きを見て、攻撃を仕掛ける帯北の湊莉菜（3年、赤色シングレット）

電子版に複数写真

中尾 甲子園へ闘志

帯南町中出



甲子園での公式練習を終えた札幌日大高ナイン。中央が帯南町中出身の中尾颯

「札幌日大の野球で日本一へ」

【兵庫】高校野球の第106回全国選手権大会（7日開幕）には十勝から白樺学園ナインが出場することに加え、札幌日大高から帯広市出身の選手が参戦する。「自分たちで考え、発想力を持って戦う札幌日大の野球で日本一になりたい」。帯南町中出の中尾颯（はや、3年）は背番号5のユニホームを身にまとい、闘志を燃やしている。

中尾は少年野球の豊成ファイターズ、帯南町中野球部で投手や三塁手として活躍。「体験入部で監督と接し、自分たちで考える野球に魅力を感じた」と札幌日大高に進学した。

南北海道大会では全試合で三塁手・1番打者として先発。「自分が塁に出て、頼もしいクリーンアップにつなげることが役目」とリードオフマンとしての意識が強いが、高校通算本塁打数は4本（うち公式戦1本）と長打力もある。

2日に甲子園で行われた公式練習では「思ったよりも広かった」と聖地の感想を語った。2018年の第100回大会で準優勝し、「金農旋風」を巻き起こした金足農業（秋田）が強く印象に残っているとし、「自分たちも甲子園で旋風を巻き起こしたい」と力を込めた。（松村賀裕）

田部・佐々木組 帯大谷 16強

個人複 埼玉栄の澤田（明星出）準決勝へ

バドミントン

（2日・SAGAプラザなど）

第3日は男女個人戦ダブルスの準々決勝までを行った。男子は帯大谷の田部時生・佐々木一成組（3年・2年）が4回戦で敗れたがベスト16と健闘した。埼玉栄の澤田修志（2年、明星小出）・有江琥珀（3年）組が準決勝に駒を進めた。女子は旭川商の2年生ペア藤川千愛（帯一中出）・山本希乃花組が準々決勝で敗れ8強。同3年生同の中島優衣奈（同中出）・井上紗彩組は初戦の2回戦で競り負けた。個人戦の準決勝と決勝は最終日の4日に行う＝記録は10面に掲載。（松崎篤嗣）

【男子個人戦ダブルス】粘り強くシャトルを拾う帯大谷の田部時生（左）・佐々木一成組

田部「やりたかった戦術できた」

佐々木「今後は全国見据え練習」

○…初のインターハイ出場で帯大谷の田部・佐々木組が16強と健闘した。田部は「前衛からどんどん触って勝ち切る動きや球をつくる動きなど、戦術の面でやりたかったことができて良かった」と胸を張った。

初戦の2回戦はジュースにもつれ込んだ第1ゲームを先取。第2ゲームも相手が先にゲームポイントを得るも追い上げてジュースとし、26―24で競り勝った。

3回戦は2―1で制し16強入り。4回戦は昨年のジュニアナショナルチームU19代表の藤吉珠李・川野寿真組（ふたば未来学園・福島）に敗れた。相澤俊彰監督は「強豪と比べても2人には光るものがあった」と評価。佐々木は「時生さんとダブルスを組んでインターハイに来させてもらって少し勝つこともできた。全国の雰囲気も分かったので今後は練習から全国レベルを見据えて頑張っていきたい」。高校最後の大会を終え、いつもは後輩に対して辛口評価の田部も「（佐々木は）緊張はしていたけど、し過ぎることもなかったし自分で修正できていた。選抜大会は期待している」とエールを送った。

旭川商の藤川 初出場で8強

帯一中出

○…初出場の藤川・山本組がベスト8に食い込んだ。初戦をストレート勝利、2回戦は相手の棄権で不戦勝、3回戦も2―0と勝ち上がった。

4回戦は第1ゲームを失い第2ゲームも16―19とリードされたが、21―19で取り返した。最終ゲームも先にマッチポイントを握られたが粘り強くシャトルを追い、24―22で逆転勝利し8強を決めた。

準々決勝では埼玉栄のペアに0―2で敗れた。藤川は「パワーに圧倒されてしまった」と分析。今大会を振り返り「ミスもあったけどラリー中も我慢してつなぐことができた。今後は強豪相手にも引かずに前衛の頭を越すようなレシーブができたら」と力を込めた。

【個人戦女子ダブルス4回戦】ベスト8を決め、ハイタッチする旭川商の藤川千愛（左）・山本希乃花組

中島は初戦敗退 全国レベル痛感

○…「打球の質や速さが全国レベルで、返すので精いっぱいだった」。中島は初戦の2回戦を敗退後、悔し涙をにじませた。

第1ゲームは競りながらも17―21と先取され、第2ゲームは21―15で取り返した。最終ゲームは序盤に失点し、追い上げたが16―21で敗れた。中島は「いい試合はできたけど、団体戦も個人戦も初戦突破の目標が達成できなくて悔しい」。

高校の大会は終えたが、15日には道選手権一般の部に出場する。「強豪相手にももっと自分たちから羽根を打てるようにして、選手権までにプレーを強化して臨みたい」と話した。